



14年前に基金の子どもたちが震災地の神戸市に植えたクスが大きく成長した話など多くの投稿があり、元気な新聞ができたよ!

※「ECoKo」とは環境問題を考える子ども達、Ecology+Kodomoの造語です。



昨年植えたサクラが花を咲かせていたのでビックリしました。



林 桜子  
東京都  
蒲原中3年  
第14回生

私は今年、桜の植樹に参加しました。  
昨年、植樹された桜の一枝にはとても綺麗な花が咲いていました。それを見て私はとても感動しました。来年、私が植えた桜がどうなっているのか楽しみです。  
この絵は、数年後の桜の様子を想像しながら描いてみました。(4面に関連記事があります。)



夢みる子ども基金の桜の夢

イラスト・林 桜子

## 夢みる子どもキャンペーン 第16回「子ども会議」



夏のイベントの内容を決める「夢みる子どもキャンペーン」の第16回「子ども会議」が3月28日、福岡市中央区のアクロス福岡で開催されました。「私のかなえたい夢」をテーマにした作文、絵のコンクールの応募者3296人の中上位入賞者22人が出席しました。表彰式の後、子どもたちが自分の作文や絵に込めた「夢」を発表しました。引き続き

## 「夢みる子ども基金」のホームページが新しくなりました。

「環境子ども新聞・ECoKo」の投稿がホームページからも出来るようになっていきます。ホームページの内容は次の通りです。

- 1 基金の活動を分かりやすくカテゴリ分けしました  
●社会福祉活動 ●環境保護活動 ●海外教育支援活動 ●海外医療支援活動
- 2 個々の活動を細分化して掲載、それぞれの最新情報を更新しやすくなりました。
- 3 「環境子ども新聞・ECoKo」の投稿がホームページから出来るようになりました。
- 4 「夢みる子ども基金だより」「ECoKo」がホームページ上で読めるようになりました。

ホームページを開設している歯科医院の方は基金ホームページへのリンクをご検討ください。



その他、新着情報も随時更新していきます。

「夢みる子ども基金」のホームページは下記アドレスからご覧下さい

URL : <http://www.yumemirukodomo.jp>

Webでの検索は 夢みる子ども基金 検索

歯医者さんありがとう! 私たちのキャンペーンは歯科医院などから提供していただいた金属冠で支えられています。

2面	「復興の願いを込めて クスの木成長」(増津舞香) イラスト(崎津優希) 「環境にやさしいエコな服を作るデザイナーになりたい」(小出石若奈) 隆世のエコ生活④(中原隆世) / eco4コマ・マンガ(須井敏介)
3面	環境インタビュー⑥(堀江健一郎) 「は虫のいのちを大切にしたい」(坂東小太郎) 「地球温暖化で苦しむ動物を助けたい」(四宮凜奈)
4面	イラスト(松元吉美) / 「今年もソメイヨシノを7本植樹」(高野愛花) 原稿募集/あとがき(堀江健一郎) / おことわり

# 復興の願いを込めて クスノキの木成長

## 14年ぶりに 現地を訪問

2月6日、私は夢みるごども基金の古市さん(事務局の方)と兵庫県神戸市西区にある高塚公園を訪ねました。神戸と言えば、関西を代表するオシャレな街であり、横浜、長崎に並ぶ異国情緒溢れる街として年中観光客で賑わっています。1995年1月17日に大都市を襲った阪神大震災の被災地としても知られています。今回、私達が訪れた高塚公園は、そんな面影は一切無く、バラ園、野外劇場、人工滝などのある17ヘクタールの公園で、「森と水の公園」の理念に基づき西神ニュータウンのシン

ボルとして、現在では市民の憩いの場として親しまれています。公園の入り口から中央池まで、クスノキを植えた道沿いには、クスノキをはじめ、アラシカ、イチヨウ、タブノキなどの木々が美しく訪れる人々を迎えてくれます。中でも県木であるクスノキの一部には、震災で多くの自然を失った街から緑あふれる街の再生を願い、14年前の1996年3月26日に「夢みるごどもキャンペーン」の基金の子供達の手によって植樹されたものでした。使用されたクスノキは、前年の1995年にキャンペーンの一環として阪神大震災で父母を亡くした子供達を招いて開いた、第1回夏のイベント、こどもの夢「阿蘇こ

ども出会いの里」の会場であった熊本県久木野村で育てられ、贈呈式には、イベントに参加した両市村の子供達が8カ月ぶりに再会し、友情と共に「神戸の復興が一日も早くなりますように。」との願いが込められた大切な贈り物だったのです。私達が訪ねたこの日は、木枯らしが舞う本格的な冬空で今にも雪が降り出しそうな程、寒さが厳しかったのですが、私が目にしたクスノキは、そんな寒さとは裏腹に、しっかりと大地に根を張り太陽の光を浴びて真っすぐと大空に向かって凛と立っていました。クスノキは数年前で大きく成長し巨木になります。また、百年も経てば神

霊が宿るとも云われるほど立派に成長します。目の前にあるクスノキは幹の太さも直径15cmと20cmと人間に例えらるなら、ちょうど私達と同じ頃の様に見受けられました。震災が奪ったものは、仕事、家族、街並み、思い出とはかり知れませんが、憎しみ、悲しみ、悔しき、様々な思いが募ります。反面、震災が残してくれた中には、優しさ、絆がありまます。まさに14年前この場所でも参加された全員の中にも、この思いが芽生えたのではないのでしょうか。そして、私は当時の子供達にお会いした事はありますが、きょうこの木の様に真っすぐと立派な大人に成長されているのではないかと感じました。

神戸市をはじめ兵庫では



崎津 舞香  
大阪府・大阪女学院高2年  
第14回生



崎津 優誠  
兵庫県・芦屋学園中3年  
第15回生



文・崎津 舞香 イラスト・崎津 優誠



震災から15年が過ぎましたが、「ぎずな、支え合う心」を次世代へ繋ぐ運動が今も盛んに各地で行われています。私は、この様に植樹をし公園などを造り続ける事で震災からの経験や復興過程における精神は、未来へ子供へと繋がって行くと思えます。そして今、そんな素晴らしい活動を企てたこの基金の一員となれた事に感謝したいです。

## 環境にやさしい エコな服を作る デザイナーになりたい



小出石 若奈  
福岡県・友枝小5年

私のかなえたいうゆめは、デザイナーになることです。私は、かわいい服が好きだから、みんなが喜ぶかわいい服をデザインしたいからです。私は、デザイナーになるために、かわいい服の絵をかいたりしています。

もし、デザイナーになったら、みんながかわいくなつて笑顔になる服をデザインしたいです。それと、かんきょうにやさしいエコな服、例えば、なかなかなやぶれないでも長持ちする服や、うすくて紙のようなきで、作れる服、着れなくなつたり必要ななくなるときには、水にとけたり、土にもどつたりする服をデザインできたらいいなと思います。そのほかにも、つばががついていて自分が行きたい場所に自由に飛んで行ける服や、



中原 隆世  
埼玉県・黒浜中3年  
第14回生

この春、我が家もついに冷蔵庫を買って替えた。今まで16年間も使っていた冷蔵庫とは記念撮影するほど大切に扱ってきた。今までの冷蔵庫は60リットルと小さい。新しい冷蔵庫は60

## 新しい冷蔵庫がデビュー エコの進歩に驚き

3リットルと聞き、巨大過ぎて家に入らないのではと思っていたが、簡単に入ってしまった。コンパクトなので本場に603リットルかと思つたが、食品がこれでもかと思うほど入る。しかも冷やす能力がすごい。庫内が空いているから冷気がぐるぐる回る。よく飲む牛乳もキンキンに冷えている。そして何より「エコ」ということだ。今までのものは360リットルで、容量は相当大きくなっているのに、消費電力は半分以下とのこと。とても驚きだった。大きい冷蔵庫は、見た目は省エネとは程遠い。しかし、技術の進歩で今まではよりよくなるに電気節約できるのだ。最近の冷蔵庫のすてきな進歩に「エコ」の進歩も感じるこのころである。



## 水を大切に!



## 地球のために つながること



須井 悠介  
大阪府・松原中2年  
第15回生

**環境**  
**インタビュー**  
⑥「里山を守る」

里地里山づくりは人の輪から  
植樹用の育苗に力を入れる

今回は、「森づくりは一粒の種と人の輪から」を理念に、その地域に根付いた生態系を壊さず守りながら、里山保全の森づくりに取り組んでいるNPO法人福岡グリーンヘルパーの会の代表平野照実さんに、インタビューを行いました。

里山保全に取り組む  
NPO法人代表の平野照実さんに  
聞きました



堀江 健一郎  
福岡県・城南高1年  
第14・15回生

**堀江**：おはようございます。今日は僕にできることがあるかもしれません。お手伝いをさせていただきながら、色々とお話を聞かせて下さい。宜しくお願いします。

**平野**：ありがとうございます。

**堀江**：早速ですが、このグリーンヘルパーの会にはどんな方々が参加され、どういった事ができかけて発足されたのでしょうか。

**平野**：活動のメンバーは様々です。決して若いメンバーとはいえませんが、多種多様な趣味・技術を持ち合わせているので、それぞれの得意分野を生かしながら活動に参加しています。活動のきっかけは、NPO法人緑のまちづくり交流協会主催で開催されたグリーンヘルパー養成講座を受講し、里山保全に関する事を学び実習を受けました。そこで、「せつかく受けた講義なので、どこかで実際に役に立てられないだろうか。」と、集まったメンバー達が立ち上げました。メンバーのひとりひとりの思いは色々ありますが、私たちの活動の根底にある「未来に美しい豊かな自然と森を残し育て、未来の子ども達に引き継ぎたい」という理念は、みんな同じです。

**堀江**：では、実際にはどういった活動をされているのですか。

**平野**：会が発足した当初は、里山保全活動が中心で、竹が



どんぐりの苗の成長状況をチェックする平野さん(左から2人目)

侵入して荒れた里山のモウソウダケの伐採でした。伐採後は元の生態系を乱さないように、近隣の木から採種し育てた苗木を植樹し、米作りの田んぼを作ることで、里地の景観がなくなります。すると今度は、トンボやカエルなど水辺の生き物が育ち、多様な生き物を育てる環境づくりが出来たのです。

こんな風に2000年に始まった私たちの活動ですが、その地の生態系を大切にしながら里地里山の再生・保全を進めていくためには、地域の遺伝子を持つ種々の育苗作業が不可欠になってきました。そこで現在は、植樹用の苗木作りにも力を入れています。私達がこの活動を始めたころは、まだボランティア活動で育苗を手にかけている団体はありませんでした。私達も、最初は手さぐり状態でやっていたのですが、植樹活動のボランティア団体において、育苗活動の先駆者的存在になったことは自慢でもあります。

このほか、環境をテーマにした様々なシンポジウムやフォーラムに参加したり、公共、企業主催の森づくりや植樹祭などに協力したりしています。そして一般の方にも参加していただける植樹祭やどんぐり拾いのイベントを企画し、子ども達が自然体験する場もつくっています。

**堀江**：すごいですね。いろいろな事を手がけ、実行されているんですね。それだけの事を活動されているのは、苦労もたくさんあると思います。

**平野**：大変だったことといえば、そうですね。伐採したタケを搬出するのも大変でした。

でも、今は育苗ハウスの管理が大変です。3棟のハウスがあるので、現在は18000本の苗を育てています。その水やりだけでも大変な作業となります。そのために水道や電気をハウスまわりの延長が必要になります。他にもハウスの近隣の農家の方々の厚意で、土地は貸していただき、その他の設備等も譲っていただいたものです。それを使用できるようにメンテナンスするのも大変でした。水道電気が必要なのは、会員が持っている技術力を発揮し、どうしても足りない部分は地元業者の方々の協力、援助をお願いしたり、と人の輪で設置できた育苗ハウスなんです。

**堀江**：そうですね。メンバー

の皆さんも限られた時間の中で活動されているのですから、ハウスの設置をするなんてそう簡単な作業じゃないですよね。では、反対に活動を通じてよかったこと、うれしかったことは何ですか。

**平野**：実は、今日の活動のひとつに、今話した育苗ハウスの移動があります。現在の場所が利用できなくなり困っていた時、やはり近くの農家の方がすぐに場所を提供して下さいました。つまり、ハウスの設置をするときもそうでしたが、ボランティア活動なのでメンバーや周囲の方々の協力なしでは出来ません。だからこそ、人は財産なんです。私はこの活動を通じて、あらためて人のつながりの大切さを感じています。

そして、もう一つはイベントの時に見られる子ども達の笑顔ですね。これはメンバーのみんなが何よりも大きな報酬だと感じていると思います。

**堀江**：普段、体験できないような自然との触れ合いがあったり、工作教室があったりと楽しい思い出がたくさん出来そうですね。イベントでも、今度、夢みるもどき基金のメンバーも参加してみたいかもしれません。

**平野**：是非どうぞ、お待ちしておりますよ。

**堀江**：では、最後に平野さんは環境問題を解決するために、現在も御自身は活動されているのですが、地球に住んでいる者として僕たちは何をすべきだと思いますか。

**平野**：自分達の代で自然を破壊することは出来ない。何代も先に今の自然を残して行きたい。今ある自然を少しでも改善して次の世代に継ぐ。それが私たちに課せられた事だと思っています。人間は地球における最上位の生物です。最上位の生物だから責任が大きいと思います。

4月下旬よく晴れた日曜日の朝、僕は、九州大学新キャンパス(福岡市西区元岡)の正門で平野さんと待ち合わせた。そして福岡グリーンヘルパーの会の主な活動フィールドである、九州大学伊都キャンパス内の生物多様性保全ゾーン(元岡里山保全地区)に案内された。そこでの会の活動内容やそこに生息する動植物を紹介して下さいました。

その後、その日の活動が育苗ハウスの移動だ、という事で車に乗ってハウスの建っている場所へ向かった。ただ、僕を乗せた平野さんの車が、太陽光線をまぶしく反射させる真新しいピルのような大学の校舎を背に、山が切り開かれ建設されたなると思われる整備された立派な道路を走る。

先ほど、平野さんと通った九州大学伊都キャンパス内の生物多様性ゾーンでの憩いのひとときはいついかなんだっただろう。周りの木々は伐採され、整地された姿を変えている。この相反する状況に僕はとまどいを覚えた。そして、そんな中で自然を守り続け次世代へ美しい豊かな自然と森を残し引き継いでいく、とされる平野さんに頭が下がっている。

**Profile 平野 照実**  
1948年(昭和23年)福岡県糸島市生まれ。大会社勤めの傍ら自然環境保護活動に加わり、2009年にNPO法人福岡グリーンヘルパーの会を設立して理事長に就任した。会員は81人。「未来に美しい豊かな自然を残す」をモットーに環境保全や緑化活動などを行っている。同会事務局(092・287・9861)。

**堀江**：ありがとうございました。僕も今日は、福岡グリーンヘルパーの会の人の輪に入れるようがんばりたいと思います。

◆感想◆  
4月下旬よく晴れた日曜日の朝、僕は、九州大学新キャンパス(福岡市西区元岡)の正門で平野さんと待ち合わせた。そして福岡グリーンヘルパーの会の主な活動フィールドである、九州大学伊都キャンパス内の生物多様性保全ゾーン(元岡里山保全地区)に案内された。そこでの会の活動内容やそこに生息する動植物を紹介して下さいました。

その後、その日の活動が育苗ハウスの移動だ、という事で車に乗ってハウスの建っている場所へ向かった。ただ、僕を乗せた平野さんの車が、太陽光線をまぶしく反射させる真新しいピルのような大学の校舎を背に、山が切り開かれ建設されたなると思われる整備された立派な道路を走る。

僕は昆虫や動物が大好きです。カブトムシやクワカラムシ、カマキリなどを飼育して繁殖させたりするのが好きです。また昆虫図鑑や動物図鑑で特ちょうや生態を調べたりするのも好きです。四年生の時には飼育委員会や生き物係もしました。ところが図鑑に「絶滅危惧種」と書かれている昆虫や動物がたくさんいました。原因を調べてみると、人間の生活に

**地球温暖化で苦しむ動物を助けたい**

**四宮 凜弥**  
福岡県・田隈小6年

必要は電気がガスを使うことによりCO2が生き物を苦しめ、数を減らしてしまいました。たまたまボクシヨクグマやペンギンは温暖化によって水が溶けて今までの環境と変わってきています。魚は今まで生きていた水温の変化に合わせて北上して、その地域生態系を乱しています。輸入されて逃げだした南米のカブトムシが日本でも生息できる場所になって日本のカブトムシの生息地を奪うばかりでなく、雑種が生まれたりしてきています。僕の夢は温暖化をストップさせて温暖でくらしめられていく動物を救いたいのです。でも、そうしたら今度は人間が不便になってしまう。だから今、世界ではCO2を減らすためにいろいろなことに取り組んでいます。僕もその活動に少しでも参加して、温暖化で数が減った動物を元の数に増やしたいです。

**は虫るいはがせにになりたい**

**坂東 小太朗**  
高知県・中村南小2年

ぼくは、は虫るいはがせになりたい。アフリカにいて、しんしゅのは虫るいはがせになりたい。ぼくは、は虫るいはがせになりたい。ぼくは、は虫るいはがせになりたい。ぼくは、は虫るいはがせになりたい。ぼくは、は虫るいはがせになりたい。

した。ぼくは、もともととは虫るいはがせにしたい。ぼくは、は虫るいはがせにしたい。ぼくは、は虫るいはがせにしたい。ぼくは、は虫るいはがせにしたい。ぼくは、は虫るいはがせにしたい。ぼくは、は虫るいはがせにしたい。ぼくは、は虫るいはがせにしたい。ぼくは、は虫るいはがせにしたい。ぼくは、は虫るいはがせにしたい。ぼくは、は虫るいはがせにしたい。





イラスト・松元 吉美

# 私たちが作る地球



松元 吉美  
福岡県  
天神山小6年

この絵は、私が実現したい夢の地球です。そこは、人間が生み出してきた技術と自然と野生の動物が協力し合って、地球上のすべての生き物が幸せに生きていくことができる地球です。

そこでは、電気などのエネルギーはみんな自然の力を使って、風力発電やソーラーパネルで作ります。人間の住む家などは自然の素材を使って自然の中に溶け込むように作ります。

どうしても必要な工場などは地下に作り、人間の住んでいる所には自然の池や植物園があって公園のようになっています。そこでは、植物や虫、野生の動物や魚などと人間が仲良くそして楽しく、ぐらしています。

私たち世界中の人達が協力して、地球をこのような自然豊かな世界にしていきたいと思っています。

## 今年もソメイヨシノを7本植樹

3月28日の「エコとも会議」先立ち、私をふくめ4人の代表は福岡市東区の青葉公園で桜の植樹を行いました。見上げるには少し低い、細いソメイヨシノを計7本、やさしく土をかきつけて植えました。昨年からはじめたこの取り組みは、「基金の桜の園を作ろう」ということで、毎年7〜8本のソメイヨシノの苗木を植えることになっています。今年も暖かいせいか、公園の桜の木も花をつけていました。そして、昨年植えた基金の桜も小さな花をつけ、1年間で大きく根をはり、立派になっていました。今回植えた7本のソメイヨシノと昨年植



高野 愛花  
福岡県  
宇美中2年  
第14・15回生

えた7本のソメイヨシノ。来年に訪れる時は、どちらの桜もきれいな花をつけていると思えます。何年先になるかは分かりませんが、いつか基金のみんなでお花見が出来たらいいですね。そのころには、私達も父さん、お母さんになっていないかもしれません。木は、1年に少しづつしか大きくなりませんが、長い長い年月を経て大きくなり、きれいな花を咲かせます。桜の園となる日まで、「エコとも基金のみなさんで温かく見守っていきましょう」と思います。いつかみんなでお花見しながら笑いあえる日を楽しみにして...



## 新聞作りに参加して下さい

「環境子ども新聞・エコ」作りには基金のOB・OG会の会員はもちろん、それ以外の子どもたちも参加しています。「環境」に関することならなんでも結構です。日々の生活の中やグループ活動などで、皆さんが実践、体験していることや環境保護についての意見などを寄せ下さい。絵、イラスト、漫画はカラーでお願いします。投稿者の氏名、所属(小、中、高校名と学年)、住所、連絡先を明記して顔写真を付けて基金事務局へ送って下さい。原稿、写真は基金のホームページからも投稿できます。絵、イラスト、漫画は郵送でお願いします。社会人の方でも結構です。「環境子ども新聞・エコ」は年4回位の発行を予定していますので、随時受け付けています。一人でも多くの方が新聞作りに関わってくださるのをお待ちしております。

### ●投稿・問い合わせ先● 夢みる子ども基金事務局

〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6-2F ☎092-751-0021  
e-mail: jimukyoku@yumemirukodomo.jp FAX092-751-0249  
URL: http://www.yumemirukodomo.jp

「環境子ども新聞・ECOKO」への投稿待ってるよ!



「環境子ども新聞」の  
なまえが新しくなりました



「ECOKO」とは  
環境問題を考える子ども達  
Ecology+Kodomoの  
造語です。

## あしがき 私たちの新聞の力で環境を守りましょう

堀江 健一郎  
福岡県・城南高1年 第14・15回生

### 地球のずっと先を見据えて

今年も、3月28日(日)にアクロス福岡円形ホールにて第16回「環境子ども新聞」6号となりました。環境子ども新聞も6号となりましたが、また新しい仲間が加わり、次号に新風を巻き起こしてくれる事と期待しています。

今回の子ども会議の中でも、地球環境に関する意見が活発に出され、本当にたくさんの方が身近な

問題として受け止め始めているのだなあ、と感じました。僕も毎回、地球環境問題に取り組む団体取材させて頂いていますが、これまでの取材先の方々も、今回の平野さんも自分たちの事ではなく、ずっとずっと先の地球、未来を見据え、行動されていることに刺激され、また新たなパワーが湧いてきました。